

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：34526
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2015～2021
 課題番号：15K04269
 研究課題名(和文) LTDおよび反転授業に着目したクリティカル・リーディング力育成プログラムの開発

研究課題名(英文) Development program of critical reading ability focusing on LTD and flipped classroom

研究代表者
 上村 和美 (Uemura, Kazumi)
 関西国際大学・経営学部・教授

研究者番号：20283830
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、学生の読解力の低下の改善を目的としたものである。具体的には、本を読まないデジタルネイティブ世代が、1冊の新書を読み切ることができるようになるというものである。そのためには、まず自分の読解力の初期値を知る必要があり、「読解力診断テスト」も制作し、LMS上での実施ができるようにした。さらには、ゼミナール授業中の2-3回を利用する想定でテキスト、ワークシート等の教材を作成し、実際の授業でも試用した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果をまとめたものとして、『ステップアップ読解力』というテキストを制作した。これは、実際にゼミナール等の授業の一部で活用することを想定したもので、実際の新聞記事や岩波ブックレットのページなども掲載し、視覚的な理解を促進するように努めた。授業での使用を想定し、その意図が実践できるようにワークシートと授業進行用のPowerPointファイルも作成した。なお、『ステップアップ読解力』は2022年秋頃に、くろしお出版から出版予定で、本研究成果を広く知ってもらえるようになった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to improve the reading comprehension of students. Specifically, digital natives who do not read books will be able to read through one a paperback pocket edition. For that purpose, it is first necessary to know the initial value of one's reading comprehension, and a "reading comprehension diagnostic test" was also created so that it could be implemented on an LMS. Furthermore, we created teaching materials such as textbooks and worksheets on the assumption that we would use 2-3 times during the seminar class, and tried them in the actual class.

研究分野：言語文化学

キーワード：読解力 学士課程教育 初年次教育

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の平成 22 年は、大学生の学力低下が叫ばれるようになって久しい時期であった。大学生の低学力化が語られるとき、本を読まない「活字離れ」の問題が同時にとりあげられることも多い。大学の教育現場においても、指定された共通テキスト(いわゆる教科書)をほとんど読んでいないケースや、読んでいても内容の理解に至っていないケースに遭遇することがしばしばある。このような学生の多くは、読書習慣がない上に、教室外での予習・復習などの学習習慣もない。活字を目にする習慣がないゆえに、わからない単語を調べる、大切な部分にマーキングする等の「読むための基本的なスキル」さえ知らないのである。つまり、「本を読まない」のは「本を読めない」ことと同義なのである。

多くの大学で、入学時に大学への適応や大学生としてのスタディスキルを身につけることを目的とした科目なども配置していた。初年次教育にいち早く取り組んでいた関西国際大学においても、平成 13 年度より初年次教育科目として「学習技術」を配置し、大学生として学ぶためのスキルを科目内容としているが、リーディングだけに時間を割けないのが実情である。そこで、ゼミなどの演習科目の中で、15 回の授業回数のうち 2~3 回を充てることを想定した授業内容を構築することになった。

2. 研究の目的

本研究では、学士課程教育全般に必要とされる読解力、とりわけクリティカル・リーディング(分析的読み)の力に注目する。そして、読解力の向上に必要な要素を導き出し、その要素を向上させるための効果的な教授法を開発する。具体的には、LTD(Learning Through Discussion) と反転授業を組み合わせた予習法を新たに開発し、教授法へ盛り込んでいくものである。

教授法の開発にあたっては、国語教育、日本語教育、英語教育の各分野での実践例、さらには心理学的なアプローチも加え、有機的かつ総合的な教授法を開発・実践していく。また、「読解力の向上に比例して他科目の力も向上する」という仮説についての検証も行うものとする。

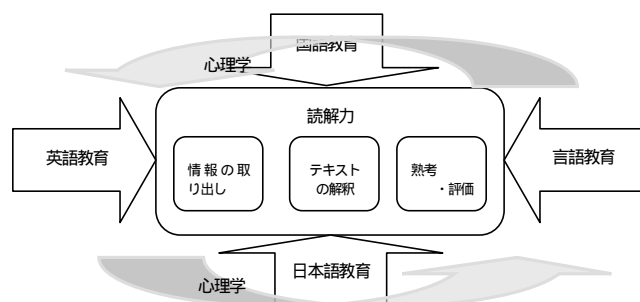


図1 研究へのアプローチのイメージ図

3. 研究の方法

研究開始の初年度は、まずクリティカル・リーディング(分析読み)の概念整理を行うことから始めた。資料収集を行うことと並行して研究会を開催し、概念について議論した。概念整理ができたところで、サンプル教材についての検討を始める。実践の場としては、関西国際大学の入学前教育(ウォーミングアップ学習)の中のプログラムの1つである「ゼミナール体験」であった。サンプル教材としては「てびき」と「予習シート」を作成する予定である。それらを試用し、修正箇所についての意見収集を行う。

読解力を測るためには「診断テスト」の開発が必要で、同時に教授法開発の段階に入る。また、サンプル教材の修正作業も行い、完成に近づける。「診断テスト」を試用、教授法も実際に活用し、「診断テスト」の効果測定、教授法の本格運用を行い、教材作成へとつなげる。

4. 研究成果

(1) 本研究に先立ち、「大学初年次でのクリティカル・リーディング力育成カリキュラムと教材開発に関する研究」(平成 22~26 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))(1)) 課題番号: 22530840 研究代表者: 上村和美)では、「読解力診断テスト」をパイロット的に実施していた。本研究では、ゼミナールの冒頭の一部の時間などを利用して、さらに短時間(おおよそ 15 分程度)コンパクトな実施が可能となるように検討を行った。

まず、読解力を測定するには、読解力の構成要素について明確にする必要がある。何をもちて読解力があると定義するのかという点から、明らかにしなければならないのである。本研究では、概念整理の検討を重ねた結果、暫定的に次のように定めた。

言語知識	局所的理解	全体的理解	表現力
漢字の読み・書き取り・語の意味・慣用句・コロケーション・オノマトペ・文法(助詞)	接続詞・指示語・原文復帰・計算式・文章の長さ・適語・(慣用句・オノマトペ)	整序問題・タイトル・主旨・要約・表層構造(×)・マトリックスにする	説明問題・グラフ or 表の読み取り

表 1 読解力の構成要素

また、「読解力診断テスト」の形式のモデルイメージとしては、2001年に実施した「学習技術診断テスト」とした。問題冊子と解答冊子を作成し、テスト実施時には問題冊子と解答冊子の問題と解答が組み合わせ、前のページには戻れない仕組みとした。

(2)当初は紙媒体を用いた「読解力診断テスト」であったが、コロナ禍での実施体制を考慮して、LMS上での実施を施行した。これにより、採点および集計作業の簡略化を図ることができるようになった。

LMS 上での「読解力診断テスト」

(3)初年次段階における読解力の養成として、関西国際大学のウォーミングアップ学習(入学前教育)のプログラムである「ゼミナール入門」における使用教材を開発し、実施母体である学修支援センターへ提供した。使用する共通のテキストには『続ける力』(伊藤真著、幻冬舎新書、2008)を選書し、ガイド、Preparation Sheet、Reading Pointsの3点を提供した。これらは全学で使用され、2020年に学部別に選書するまで継続して利用された。

(4)実際に授業で使用する教材(テキスト)として、『ステップアップ読解力』を試作した。内容は以下の構成である。

- 『ステップアップ読解力』目次
- 第1章 読解力とは何か?
 - 第2章 新聞を読もう
 - 第3章 新聞の新聞の「特集記事」を読もう
 - 第4章 ブックレットを読む
 - 第5章 「新書」を読んで読解力を高めよう
 - 第6章 専門書の読解に向けて

授業での利用にあたっては、ワークシートと授業進行用のPPTも作成し、「基礎演習」等の初年次教育科目の中でパイロット実施を行った。本を読む機会が激減している学生たちが対象であることを考慮して、新聞や岩波ブックレットなども題材にした。少ない文字数から段階的にトレーニングし、新書1冊が読めるような力を身に付けるためである。さらに、読解方略が視覚的に理解できるように、実際の新聞紙面や岩波ブックレットのページを使用した。

パイロット実施の結果を経て、本書は2022年秋頃にくろしお出版から同様のタイトルで出版予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 上村和美	4. 巻 9
2. 論文標題 『読解力診断テスト』の結果からみた学生の傾向	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 関西国際大学 教育総合研究叢書第9号	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横川 博一 (Yokokawa Hirokazu) (50340427)	神戸大学・大学教育推進機構・教授 (14501)	
研究分担者	堀井 祐介 (Horie Yusuke) (30304041)	金沢大学・高等教育開発・支援系・教授 (13301)	
研究分担者	成田 信子 (Narita Nobuko) (50434965)	國學院大学・人間開発学部・教授 (32614)	
研究分担者	米田 薫 (Yoneda Kaoru) (70382463)	大阪成蹊大学・教育学部・教授 (34437)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 創 (Ito Hajime) (90644435)	関西国際大学・基盤教育機構・准教授 (34526)	
研究分担者	西川 真理子 (Nishikawa Mariko) (10252727)	流通科学大学・経済学部・特任教授 (34522)	
研究分担者	井上 加寿子 (Inoue Kazuko) (80595637)	関西国際大学・教育学部・講師 (34526)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関